一晴さんは、立体的なパズルが得意で、この日は、宝箱をつくりました。
(写真左から)お母さん、月華(つきか)さん(妹)、華乃(かの)さん(姉)、一晴さん、お父さん

発達障害を理解し、サポートする

共に生きる――

12月３日～９日は障害者週間です。今月の特集は近年注目されている「発達障害」について取り上げます。町内に住む、一晴(いっせい)さん(いっちゃん・中学１年生)と家族のエピソードから、発達障害について理解を深め、一緒に考えてみませんか。

問 福祉課　☎２８６-３１６１

田村 幸雄さん（介護福祉士･ガイドヘルパー）

「一晴君と歩くのは楽しい。一緒に反抗期も乗り越えました」と目を細める田村さん。お母さんいわく「第2のお父さん」です。

出会った最初は、ちっちゃくて走り回って･･･。手をしっかりつないで外出していました。障害があるからといって、してはいけないことはしていけない。たとえば、飛び出さない、人をたたかないとか。そのようなことを、小さいときからずっと教えてきました。今では、手をつながなくても外出できるようになりました。今までで一番嬉しかったのは、発語があったときです。小学２年生くらいだったと思います。みんなの名前を言えるようになりました。これからもいろいろなことが起こると思います。成長に合わせて、そのつど、ご家族と一緒に、対応していきたいと思っています。

ほーぷデイサービスセンター・キララの中島さん(左)と手をつなぎ、デイの仲間と散歩

一晴さんは、発達障害に含まれる、自閉症・注意欠陥多動性障害を持ち、知的障害もあります。自分が伝えたいことをうまく話すことができないので、相手の手を引っ張ったり、行動で思いを伝えようとします。

「いっちゃんの要求が分からないとき、その『暗号』を家族みんなで考えるのも楽しい」と姉の華乃さん。

家族みんなで「楽しむ」

一晴さんの目的が家の外だったら、家族みんなで出発。何が起こるか分からないので「ミステリーツアー」と呼んでいるそうです。例えば、町内のショッピングモールの名称を言っているけれど、違う道を指すので行ってみると、町外の別のショッピングモールへ到着。「ここへ行きたかったのか!」と、家族みんなで納得、というエピソードも。

「3人兄妹で、お菓子や観たいテレビを巡って本気でけんかしてますよ。一晴に障害があるから思いやって…というのはなく、お互い主張しながらどうしたらいいか考えています。そこがいいのかもしれませんね。みんなで一緒に『楽しむしかないか!』と言っています」とお父さんは目を細めます。

一晴さんが生まれてからこれまで

「生まれた頃のいっちゃんは、笑うけど目を合わせませんでした。高い高いをしても、親ではなく、景色を見ていて…。本などで調べ、心の準備はできていました」とお母さん。

生まれたときから姉の華乃さんとは様子が違っていたそうです。その後、1歳半健診での助言で、町の療育相談へ。療育手帳を取得し、2歳になって、町内の児童発達支援センターである柏学園に入園。

今では、ご飯を炊いたり、卵焼きを作ったりと、いろいろ挑戦する一晴さん。お母さんは「挑戦することは、良いことですが、心配でもあります。配膳などを手伝うこともありますが、行動が早く、家の中でも目が離せません」と話します。

また、歩くことが大好きで、10㎞くらいは平気。ヘルパーさんと宇品海岸まで歩くのがお気に入りのコースです。

周りのみなさんの温かい「支援」

「家族だけでは大変です。いつも、近所の人・親同士の友だちなど、周りの人に助けてもらっています。温かく接していただき、感謝しています」と、ご両親。障害のある子の親の集まりにも参加し、親同士で協力したり、共感したりして、気分が軽くなるそうです。

ヘルパーによる支援やデイサービス(放課後等に療育を行う事業所へ通うもの)も、一晴さんに合う事業所を探して生活の中に取り入れています。「サービスを使うと、子どもたちにとっては世界が広がり、親にとっては時間に余裕ができて助かります」とお母さん。「サービスは、家族が笑顔で暮らしていくための、選択肢の一つかもしれませんね」と続けました。

みんなの理解や手助けがあれば、一緒に暮らしていくことができる

「発達障害を持っている子は『困った子』ではなく、本人が『困っている子』なんです。みんなの理解や手助けがあれば、一緒に暮らしていくことができる。ただ、必要な支援は、一人ひとり違います。そこを周りが理解していくことができれば…」とお母さんは話しました。

一晴さんをサポートする人たち

松本祐子さん（介護福祉士。ほーぷデイサービスセンター・キララ管理者）

キララは定員10人の事業所。現在、約30人が登録。「今では、一晴君は人の輪の中に入れるようになりました」

一晴君とは、４歳ころから関わっています。当時に比べると、ずいぶん落ち着きがでてきました。自閉傾向がある方は、自分の気持ちを表現することが苦手なため、頑張りすぎると笑ったり、特定の言葉を繰り返したり、体を動かしたり、とパニックになってしまいます。そうならないよう、適度な活動を促しています。キララでは、子ども同士や人との関わり方など、社会に出たときに必要なことを積み重ねていってもらえれば、と思っています。何年もかけて、その子その子のペースで無理のないように関わることを心がけています。保護者のみなさんに対する支援も少しずつですが行っています。

みんなのまなざしが変わること

発達障害はどのような特徴があり、どのような配慮が必要なのでしょうか。
これまで多くの子どもたちや家族に寄り添ってきた、相談支援専門員の金丸博一さんに尋ねました。

『跳びはねる思考～会話のできない自閉症の僕が考えていること』の著者である東田直樹さんは、その本の中で、次のように述べています。

◆「僕の口から出る言葉は、奇声や雄叫び、意味のないひとりごとです。普段している『こだわり行動』や跳びはねる姿からは、僕がこんな文章を書くとは、誰にも想像できないでしょう」

◆「特に困っているのは、本当の自分をわかってもらえないことです」

◆「『自閉症を理解してください』と言われても、多くの方は戸惑われるような気がします。…啓発活動をしている人は、障害の理解が広まれば、誰もが暮らしやすい社会がつくれると考えています。…理解できたから、協力するとは限りません。…それでも、自閉症を知ってもらうことで生きやすくなると思うのは、僕を見るみんなのまなざしが変わってくるからです」

◆「自閉症の僕はいつも、視線に踊らされています。人に見られることが恐怖なのです。人は、刺すような視線で僕を見るからです」

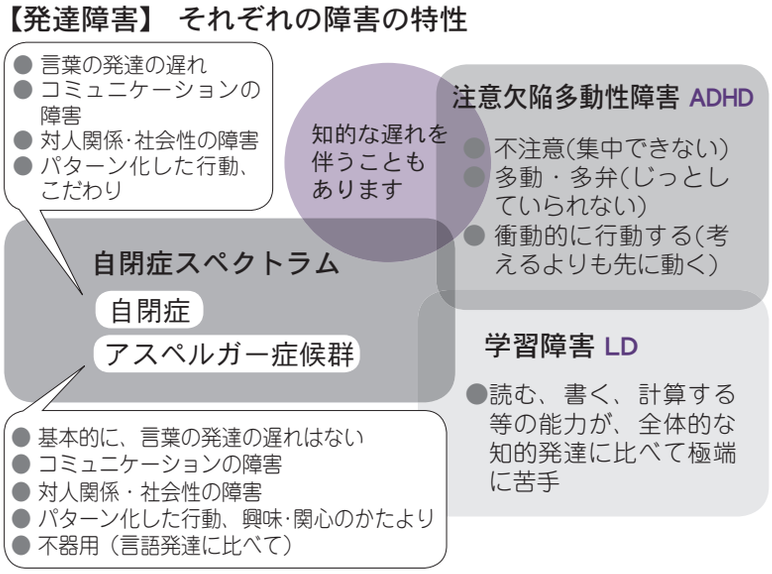
◆「理性で感情をコントロールし、会話によって思いを伝え合う現代社会は、僕にとって異次元に迷い込んだかのような世界です」

◆「つらい気持ちは、どうしようもありませんが、ひとりではないと思える瞬間が、僕を支えてくれます」

東田さんの言葉を噛みしめるほどに、私は発達障害のある子どもや大人たちを愛おしく感じます。障害がなければ見えないことが、彼らには見えていることが多いことに胸が躍ります。一方では、日々受けている苦悩や生きづらさに思いを巡らせつつ、人に優しくなれるということと、人が幸せになることがどういうことなのかを考えさせられます。

普通に生まれ、普通に育つことってどういうこと？今の世の中は、子どもたち一人一人が幸せになろうとする力を育てているの？周りに協調することにばかり目が行き過ぎていない？自分だけが感じる温かみを、もっと大切にしていいんだと伝えていいんじゃない？ということをいつも考えています。

【発達障害】 それぞれの障害の特性



金丸 博一さん
社会福祉法人柏学園
相談支援専門員。町内をはじめ県内の保護者等からの相談に応じている。また、厚労省の事業にも関わる。

発達障害を理解するということは、その障害の特性を理解するということに留まらず、まず人として理解することが大切です。支援の場面で評価するだけではなく、普段好んで取り組んでいる時の表情、ご飯を食べている時、寝付く時の表情、ご両親の笑顔の中に潜む本当の想い等々を教えていただき、その人の生活全体をイメージしたいものです。それから、その人の良さ、ご家族の素晴らしいところを共有していきたいと思っています。

ほんの少しだけだけど、その人の気持ちに近付けたような気がした時、私たちは、「発達障害を理解し、サポートする」ことに近づけるのかもしれません。

誰もが暮らしやすい社会に

私たちは、一人ひとりみんな違います。お互いの個性を尊重し、認め合うことが、暮らしやすい社会づくりにつながります。

子どもの生育歴などを記録するサポートファイルを見ながら(一晴さんのお父さん･お母さん)

発達障害をはじめ、障害にはさまざまな種類があり、同じ障害でも症状や程度は一人ひとり違いますが、周囲の理解やサポートによって、障害があっても多くのことができるようになります。

発達障害がある人と接するときに大切なのは、まず相手の気持ちを考えることです。相手が、何をしたいのか、何をしてほしいのか、何に困っているのかを知ることだけでも、相手や周りの人の気持ちは楽になります。

外見、内面、能力、寿命そして障害の有無。私たちはそれぞれ、どこかが違います。一晴さんと家族をはじめ、今回、紹介したみなさんのように相手に心を寄せれば、障害も「個性」に変わります。

たくさんの個性を尊重し、「おたがいさま」という自然な気持ちで助け合うことができる…、そんな「誰もが暮らしやすい府中町」を、一緒につくっていきましょう。

子どもの心配ごとの相談先

相談内容	相談窓口	電話/FAX	所在地
障害に関すること･福祉サービス	福祉課障害者福祉係 障害の相談、支援機関の紹介、福祉サービスの利用申し込みなど。	286-3161/ 283-5775	役場2階⑦番窓口
障害、発達の心配ごと	児童発達支援センター 柏学園 発達などが心配な子どもの成長を一緒に支えていきます。	282-6500/ 282-4981	青崎東7番12号
子育て全般	府中町子育て包括支援センター 子育てについて、幅広く相談を受けています。支援機関も紹介します。	286-3163/ 283-5775	役場２階･⑥番窓口(子育て支援課内)
子どもの健康に関すること	健康推進課健康増進係 就学前までの子どもが対象。子どもの健康、成長、発達などの相談。	286-3258/ 286-3262	福寿館
学校生活全般	教育相談室・適応指導教室 幼稚園～高校生と家族が対象。学校生活などに関する悩みや心配ごと。	285-1013/ 286-3298	くすのきプラザ１階･教育委員会内

遠慮なくご相談ください

増田主事(福祉課)

掛谷保健師(福祉課)

金藤子育て包括支援員

保護者の会、つどいの場

●府中町心身障害児（者）父母の会
●府中町手をつなぐ親の会

問福祉課障害者福祉係　☎286-3161 FAX 283-5775

町内に住んでいる、障害を持つ子どもの保護者が集まり、障害について学んだり、レクリエーションなどを行っています。

●児童センターバンビーズ 「オリーブの会」

問児童センターバンビーズ(南交流センター2階)
☎286-3212 FAX 286-3213

発達障害など、支援が必要な子どもの保護者が対象。専門の講師を招いての勉強会や、保護者同士の交流会を行っています。